

2014年補体研究会総会議事録

日時：平成26年8月23日（土）午後13時15分～13時45分

場所：神戸常盤大学

出席者

正会員 56名

学生会員 10名

非会員 35名

議事内容

1) 平成26年度（第51回）集会開催状況報告（畑中集会長）

畑中集会長より第51回補体シンポジウムの状況報告があった。

一般参加、56名 学生10名 非会員35名であり、総計101名の参加であること、および常盤大学の支援での開催の説明があった。

2) 第51回補体シンポジウム優秀賞選考結果について（若宮会長）

昨日、行われた運営委員会にて、塚本浩氏（推薦者：堀内孝彦氏）演題：「感染を繰り返した先天性補体C3欠損症の遺伝子解析」を、第51回補体シンポジウム優秀賞に決定したことを報告あり。今後は、日本補体学会に移行する上で優秀賞をふさわしい制度にしておく必要があることから、日本補体学会では、堀内孝彦氏を優秀賞選考委員に任命し、優秀賞についての検討を行うことが報告された

3) 平成25年会計報告（井上事務局長）

収入は、繰越金と会費収入その他で、4442351円。

支出は、第50回シンポジウムの費用、事務局謝礼、事務費用の合計1043359円であり、3398992円を持ち越しであることの説明があった。その後総会で、平成25年度会計報告があった。

4) 会計監査報告（藤田監事）

監事を代表して、藤田禎三氏より収支が適正に処理されている事を確認したという報告があり、総会にてその承認を得た。

5) 平成26年会運営一般状況報告（若宮会長）

会費収入も、順調に推移している。また、会員数も少しずつであるが増加傾向にあること。また、補体研究会における残金のすべてを一般社団法人日本補体学会に移行することが運営委員会で認められたこと、またXXVIth International Complement Workshopの日本開催に際しての運営資金の必要性がでてきたので、当座資金として150万円を当てること運営委員会で認められたことの報告があり、総会にてその承認を得た。

6) 名誉会員の推薦について（若宮会長）

運営委員会にて岡田則子氏と大井洋之氏（運営委員を本年7月7日に辞任したため。）を名誉会員とする事を決定し、総会にてその承認を得た。

7) 新運営委員の選考について（若宮会長）

大井洋之氏退任に伴い、次点の関根英治氏（福島県立医科大学）を新運営委員とする事を決め、総会で承認を得た。同時に、法人化後の設立理事にも就任することを決定し、総会

にて承認を得た。

8) 一般社団法人日本補体学会設立について (若宮会長)

(1) 定款と細則

補体研究会会則 VI 会則変更(31)に基づき、総会で補体研究会会則を廃止し、一般社団法人日本補体学会定款を制定する事を運営委員会です承を得たことを報告し、総会にて、賛成 42 人、反対 0 人で、定款が制定され、一般社団法人になる事が決定された。

(2) 大阪府立成人病センターの補体研究会事務局を登記場所とする事が運営委員会で了解され、総会にて承認された。

(3) 集会名：運営委員会で集会名について投票となり、日本補体学会学術集会 6 票、補体シンポジウム 5 票で、日本補体学会学術集会とする事となった。集会の回数は、そのまま継続し、次回は、第 52 回日本補体学会学術集会とすることが決定された。

学会：一般社団法人日本補体学会

英語名：The Japanese association for complement research

学術集会：第 回日本補体学会学術集会

学会誌：「補体」

本学会について、上記とすることの報告を行い、承認を得た。

(4) 学会化、法人化に絡んで、学会実印、学会角印、集会長角印を作製することを報告し、承認を得た。

(5) 定款のごとく、新役員は、会長、副会長、理事、監事とすること。集会長は、オブザーバーとして、理事会に参加すること。初年度の監事の任期は、通常 4 年であるが、2 年とすることを運営委員会で決定し、総会にて承認を得た。

(6) 法人化、学会に際して、新ホームページを立ち上げることを報告し、承認を得た。

9) 日本学術会議が指定する「学術協力団体」への申請について (若宮会長)

機関誌を 1 年以上発行しているという条件を満たすために、学会誌「補体」を立ち上げ、「学術協力団体」に申請すること運営委員会で決定したことを報告し、総会にてその承認を得た。

10) XXVI International Complement Workshop 開催について (藤田 2016/ICW 学会長)

藤田 2016/ICW 学会長より、2016 年 ICW が日本で開催されることが 2013 年のヨーロッパ補体学会での ICS 評議会決定したこと。現在学会開催予定は、2016 年 9 月 4 日~8 日、学会会場はホテル日航金沢で行うことを、ブラジルリオ ICW2014 で、日本開催のプレゼンテーションを行うことが報告された。

11) 第 52 回集会開催準備状況報告 (若宮会長/水野正司)

名古屋大学大学院医学系研究科 水野正司氏が第 52 回日本補体学会学術集会の集会長をつとめることが報告された。

水野次期集会長から、第 52 回日本補体学会学術集会は、2015 年 8 月 21 日(金)、22 日(土)、名古屋大学医学部付属病院大会議室で行なわれること。招待講演者としては、Professor Paul Morgan を講演者として予定していることが報告された。

12) 第 53 回日本補体学会学術集会 (2016 年) について (若宮会長)

2016 年は ICW を金沢で開催するので、年 2 回の集会は負担が多いとの判断で、運営委員会で、52 回日本補体学会学術集会は、金沢 ICW と合同で行うことを決定した。集会長は、藤田禎三氏に兼任していただき、理事会、社員総会は ICW 開催中に、日本補体学会として開催することを決定し、総会にてその承認を得た。

13) その他 (若宮会長)

今回の集会においても、補体検査体制の機能低下を危惧する報告と種々の疾患の治療に際して、補体検査の重要性が今後ますます高まる可能性から、日本補体学会としては、検査体制の再整備と開発を本格的に行う事を報告し、総会にてその承認を得た。